

議員特別研修実施報告書

報告議員名	青山 豊	報告日	令和2年3月9日
調査研究・研修等 名 称	国際シンポジウム「東北地方の観光振興を考える」 講義「英語で学ぼう観光学」		
実 施 日	令和2年2月13日 ～ 令和2年2月14日		
会 場	仙台市青葉区・東北学院大学土樋キャンパス		
調査研究・研修等の 概 要	南オーストラリア大学に在籍する外国人研究者らが東北地方の観光振興について洞察するシンポジウム。		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙参照してください。		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

特別研修報告

国際シンポジウム

「東北地方の観光振興を考える～外国人研究者からの洞察～」

講師：ロブ・ハラック、グラハム・ブラウン、村山貴俊、松岡孝介、秋池篤

日時：令和2年2月13日（木）～14日（金）

場所：東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館（仙台市青葉区）

◆地域都市の観光開発（オーストラリアの観光政策から東北の観光業の成長戦略を探る）

- ・オーストラリア（以下、豪）の観光業は超成長産業。輸出収益の10%を占め、92万人（13人に1人）の雇用を生み出している。
- ・観光政策を議論するには「観光地」を定義し、はっきりと理解しておく必要がある。豪では、国が各地域の観光組織と協議して定義する。
- ・観光地の課題として、「情報不足」が挙げられる。外国人観光客は東北地方の観光情報をどの程度知っているのかを把握しておく必要がある。
- ・「若者」という新興市場に目をつける、そのための方策を考える。VR、ARといったデジタル・テクノロジーの活用。豪を訪問する外国人観光客の25%がウーバー利用者。テクノロジーは観光重要の原動力。それを活用することによって観光地のイメージとブランドを向上させる。
- ・行政による支援と企業の投資について、自治体・観光業者、コミュニティを統合するしくみが必要。
- ・自治体の役割は観光業者が直面している問題に目を付け、各種データを提供し、資金以外のサポートをすることが肝要。

◆地方観光地の競争力測定（宮城蔵王の事例）

- ・TDC モデル（観光地競争力モデル）は需要側と供給側両面からアプローチを試みる測定手法。

- ・それを蔵王町で測定してみた。ちなみに、蔵王町は自らの課題は「人口減少と高齢化」で、その解決策として「交流人口の拡大」を挙げている。

- ・測定の結果、「自然中心の観光戦略」が有効。自然の中で食事を楽しむ、スポーツを楽しむ、文化を楽しむ施策に取り組むこととした。

◆観光振興に欠かせないもの

- ・情報提供

- ・旅行者とのコミュニケーション（おもてなし）

- ・ターゲット国をひとつに絞らない

- ・地域の本質を変えない

- ・リピーターへのオファー。地元の人たちがいかに幸せに暮らしているか？を観光客はみている。リピーター獲得に向けて、一人ひとりが地域をよくする意識を持とう。

●所感

観光振興における行政の役割として、「資金サポート以外の支援」という意見が印象に残った。行政、業者、コミュニティ（地域、住民）を統合するしくみというのは、まさに DMO であり、その充実が尚一層求められるのではないかな。

TDC モデルは観光政策を立案するために参考となり得る測定手法。需要と供給のマッチングにより、現状分析と今後がみえる。

「地元の人たちがいかに幸せに暮らしているか」。住民のためのまちづくりをしている自治体は自ずと観光客が来るという意見に、横手市は果たして・・・と考え込んだ。